

天地人

2019・5・13

県民の平均寿命が、男女とも全国最下位というのは動かしたい事実だ。しかし、それをバネに奮起し、弘前大学COIが「寿命革命」を掲げて最先端の研究に取り組んでいる▼2005年から、弘前市岩木地区の住民健診などで集めた健康状態、生活習慣、家族構成など2千項目に及ぶビッグデータは、14年間で延べ2万人分以上という世界に類のないものだという。これを基に人工知能(AI)を駆使して解析を進め、病気を予防、健康寿命を延ばそうとしている▼COIは「センター・オブ・イノベーション」の略で、13年から始まった文部科学省の大型研究開発プロジェクト。一昨日には、弘大COIや健康科学について話題を提供する「サイエンスカフェ」という催しが弘前であり、第一線の研究者が、県内の高校生らに短命県返上の可能性などを熱く語った▼「寿命革命」は息の長い取り組みになるとされる。そのため、既に若者たちによるプロジェクトの継承にも目を向けているとは、文科省の期待の大きさが分かるつとつというものだ▼弘大COI拠点長でもある中路重之弘大特任教授は、先月の本紙特集紙面でこう強調していた。人生の最大目標は「生きがい」の発見。その基盤は「健康」。健康と生きがいはセットで存在する。「寿命革命」を生きがいにし、さらに研究に打ち込む世代が続くことを期待したい。